第24回情報知識学フォーラム予稿

SNSを活用した地域文化情報発信に関する考察

-石川県能登町黒川地区を事例として-

Consideration on disseminating local cultural information using

SNS- a case study in Kurokawa area, Noto-cho, Ishikawa

prefecture –

寺尾承子^{1*}, 堀井美里¹, 堀井洋¹, 寺口学²

Shoko TERAOKA^{1*}, Misato HORII¹, Hiroshi HORII¹, Manabu TERAGUCHI²

1 合同会社AMANE

AMANE. LLC

〒921-8147石川県金沢市大額2-44 N3ビル203

2 能登総合研究会

Noto Research Group

発表者らは、石川県能登町黒川地区において地域資料を題材とした動画制作およびSNS上での発信プロジェクトを2018年度に実施した。黒川地区は能登天領の一村であり、県指定文化財中谷家住宅といった文化財や能登独自の習俗等の”地域資料“が数多く残されている。現在、地域住民が中谷家住宅を利用して地域活性化や交流活動を行っているが、文化財や伝統的風習、中谷家文書は、十分に周知されていないのが現状である。また、過疎高齢化等の要因により地域資料の継承が困難となりつつある。同地区の歴史的価値を高め、かつ地域資料の継承を継続するためには、歴史・文化の詳細と魅力を広く発信する事が必要である。本発表では、地域住民と連携して黒川地区の歴史・文化を全国への周知・普及させる事を目指した取り組みについて紹介し、SNSを利用した地域文化情報発信手法に関する考察を行う。

In 2018, the presenters conducted a video production based on regional materials and a transmission project on SNS in the Kurokawa area of Noto-cho, Ishikawa Prefecture. The Kurokawa area is a village of Noto Tenryo, and there are many "regional materials" such as cultural assets such as the prefecture-designated cultural property Nakaya family residence and customs unique to Noto. Currently, local residents are using the Nakatani Family Housing for regional revitalization and exchange activities. However, cultural properties, traditional customs, and Nakatani Family documents are not well known. In addition, it is becoming difficult to pass on local data due to factors such as depopulation and aging. In order to increase the historical value of the district and continue the inheritance of local materials, it is necessary to disseminate the details and charms of history and culture widely. In this presentation, we will introduce the efforts aimed at disseminating and disseminating the history and culture of the Kurokawa district to the whole country in cooperation

with local residents, and discussing methods for transmitting local cultural information using SNS.

キーワード: 石川県能登町黒川地区, 文化財, SNS, 情報発信, 動画

Keyword1, Ishikawa prefecture Noto-cho Kurokawa area Cultural property, SNS, Transmission of information

1 はじめに

日本各地には、歴史資料や民俗資料をはじめとする多種多様の“地域資料”が存在する。これらの地域資料は、地域住民や各自治体が世代交代を行いながら継承・保存されてきたが、現在多くの市町村では過疎高齢化が進行し、次世代への地域資料継承が難しい状況になりつつある。石川県能登町は過疎高齢化が進む地域で、同町の高齢化率は40%を超える。これは、全国平均を上回る深刻な状況である。

本研究の対象地域である能登町黒川地区は、奥能登の内陸に位置する集落である。江戸時代には幕府直轄地（天領）の一村であった歴史を持ち、地区内には建築物としては能登町唯一の県指定文化財中谷家住宅（正式名称 中谷家住宅附屋敷構え）が保存されている。

地区内の主な生業は農業で、昔ながらの土地利用が行われている。そのことから、能登独特の習俗が現在にまで受け継がれているのも一つの特徴である。

このような景観や庄屋の家屋が現存している集落は、能登天領62ヶ村の中でも黒川地区のみである。このことから、黒川地区は能登天領の典型例として歴史的価値が高いと言える。現在ではこのような条件を活かし、地域住民が中谷家住宅を利用して地域活性化を目的とした交流活動を行っている。[1] [2]

しかし、この活動は主に交流に重点が置かれているため、中谷家住宅所蔵の文書や地区内の文化財、伝統的な風習といった地

域資料については、十分に周知されていないのが現状である。

同地区の歴史的価値を高め、かつ地域資料の継承を継続するためには、歴史的な魅力を広く発信する事が必要である。

以上のことから、発表者らは能登町黒川地区を能登天領地のモデルとし、地区の地域資料を題材とした動画制作、そしてSNSによる情報発信プロジェクトを2018年に実施した。

本発表では、域住民と連携して黒川地区の歴史・文化を全国への周知・普及させる事を目指した取り組みについて紹介し、SNSを利用した地域文化情報発信手法に関する考察を行う。

2 動画の構成

本プロジェクトでは、Facebookを使用し、黒川地区の情報に特化したページを作成した。[3]作成した動画は表①の通りであ

表1: 各動画のリーチ・エンゲージメント数

番号	動画名	公開日	リーチ数	エンゲージメント数
1	能登町黒川地区について	2018.8.10	1,212	317
2	夏の里	2018.8.31	220	64
3	白山神社の文化財	2018.9.18	212	83
4	秋の里	2018.10.1	258	98
5	浄福寺の文化財	2018.10.30	229	74
6	古文書から読み解く能登の暮らし1	2018.12.21	463	168
7	黒川白山神社の秋祭	2019.2.4	128	62
8	黒川の近代 柏木藤三	2019.2.4	148	63
9	古文書から読み解く能登の暮らし2	2019.2.18	130	70
10	冬の里	2019.2.27	139	55
11	水力発電の歴史	2019.3.3	75	60
12	アエノコト	2019.3.13	117	36
13	黒川地区の景観	2019.3.14	359	86
14	中谷家住宅について	2019.3.15	591	117
15	黒川への道のり	2019.3.18	320	66
16	能登に生きる現代の庄屋	2019.3.18	139	43
合計値			4,740	1,462
平均値			296.25	91.375
※数値は2019年10月現在のもの。				

る。作成した動画は16本で、テーマは下記の4点を取り扱った。

- ①黒川地区内の文化財や資料
- ②農業に関する習俗や祭り
- ③文化財活用方法や活動内容（中谷家住宅等）
- ④里の四季や景観

なお、黒川地区長 川崎時夫氏にはアエノコト[4]の実演を、中谷家住宅の解説については石川工業高等専門学校准教授村田一也先生にご協力いただいた。

3 SNS上の反応とその傾向

作成した動画の内、Facebook上でのリーチ・エンゲージメント数が多いものは①～③の順となっている。

①「能登町黒川地区について」は、黒川地区の情報を簡略化して紹介した。黒川の地形・歴史等をビジュアル的に伝え、その他15本の動画の導入となるよう構成した。

②「能登町黒川古文書から読み解く能登の暮らし1」では、中谷家住宅所蔵の絵図を取り上げた。絵図は、地区を流れる町野川の支流を描いたもので、資料から農村の人々にとって水が必要不可欠なものだったと説明した。

③「中谷家住宅について」は、中谷家住宅の建築的特徴をテーマに解説した。特に、同住宅内にある漆蔵[4]は普段非公開のため、資料動画を兼ねるものとした。

この結果について、①はページ全体の導入動画であった事、そしてページの最上部に表示されるよう設定されている事が数値の増加に関係したものと推測される。

②、③の情報は、いずれも普段非公開の情報であるため、閲覧数が増加したと推測される。特に②は、中谷家住宅で毎年行われ

ている田植えの様子を紹介した事から、イ

図1: エンゲージメント数の推移

図2: ページのリーチ数の推移

イベント参加者の反応が反映されたと思われる。

次に、ページ全体の反応について分析する。図1および2は2018年10月～翌2019年10月までのページ・投稿等のリーチ・エンゲージメントの数値である。

ここから、閲覧者の数値が2018年10月と2019年2～3月に増えていることがわかる。

2～3月は、動画投稿の間隔が短い事に影響していると思われる。黒川地区の風習や中谷家住宅のイベントは、秋から冬に固まっているため、動画の投稿が2月～3月に集中した。短期間に数多の投稿をした事により、閲覧者数の増加が統計に現れたと言える。10月のリーチの増加は、上記にも示した通り、中谷家住宅でのイベントに関する動画を投稿したためだと思われる。

これは、動画の閲覧者層からも伺える。今回の分析で動画の上位閲覧者層は、25～34歳の女性に多い事がわかった。

この結果は、現地調査の際に知り合った人々の多くが壮年層であったためと考えられる。発表者が現地調査で知り合った人々は、地域住民を除くと中谷家住宅のイベントの参加者、そして動画の内容について解説を行った若手の研究者・学生である。

彼らが、ページのフォローや閲覧を行う事により、他の同世代のリーチに繋がる。そして、壮年層の女性が能登黒川探検隊の上位閲覧者として数値を伸ばしたと理解できる。

また、投稿者が上位閲覧者と同世代・同性である事にも注目しておきたい。

SNSの閲覧者の繋がりは、年齢や関心、職場等、何かしらのコミュニティや共通点から派生する。それゆえ、特定のターゲットに情報発信を行うためには、ターゲットに関わるコミュニティか人物との接点が必要ではない。

今回の投稿では、情報が投稿者の関係するコミュニティへと繋がった事により、同年代・同様の関心を持つ人々のエンゲージメントを獲得したものと考えられる。

4 おわりに

継続的な地域資料の情報発信を行うためには、いくつかの課題が見受けられた。

まず、Facebookは100人以上のフォロワーがなければこれ以上の分析をすることができない。黒川探検隊のフォロワーは10月現在100名に満たないため（フォロワー

数の推移は図3参照）、性別や年代の分析を表示することができない。今後は、フォロワーを増やすことに重点を置き、さらなるデータの分析を重ねる必要がある。その上で、上位閲覧者に“魅力的な内容”を提供する事が重要である。さらに、基本的な地域資料の情報を定期的に投稿しつつも、上位閲覧者以外の層が情報発信を行うことで、多くの年齢の閲覧者獲得を狙えるのではないだろうか。

また、今後は地域の情報発信者として上位閲覧者と同世代の地域住民が定期的に情報を発信することも視野に入れていきたい。

最後に、本研究の実施を行うにあたり、ご協力いただいた黒川地区の皆様、関係者の方々に心から感謝いたします。

注記および参考文献

- [1]能登天領 中谷家住宅HP
<https://www.noto-nakatanike.com/>
- [2]寺尾承子, 堀井美里, 堀井洋, 寺口学:
「地域の歴史・風俗を題材とした動画のSNS発信に関する考察-石川県能登町黒川地区を事例として-」, 観光情報学会第19回研究発表会予稿集, pp5-7, 2019
- [3]能登黒川探検隊Facebookページ
<https://www.facebook.com/能登黒川探検隊-742483799272770/>
- [4]アエノコト: 12月に田の神を家に迎え入れ, 一年の収穫に感謝する祭礼. 主人は, 盲目の神をさもいるように演じる. 12月に神様を迎え, 2月に田へお返しする.
- [5]漆蔵: 能登町黒川地区中谷家住宅内にある総漆塗の蔵. 建築年代等是不明. 現在調査がすすめられている.

図 3: フォロワーの推移